

自立活動（聴覚障害教育）

平成28年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問題1～問題6 全6問）

時間 9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて2ページです。
試験中に印刷不鮮明、落丁等に気づいた場合には手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問題別に8枚あります。ホチキスの針は、はずさないでください。
別に下書き用紙が1枚あります。
全ての用紙に、
 - ① 種目欄
受験する種目の□欄に✓を記入してください。
 - ② 受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ③ 氏名欄
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問題と同じ番号の解答用紙に記入してください。
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。
筆記用具は、黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があつてから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があつたら、解答を直ちにやめ、解答用紙と下書用紙が回収されるまで、着席したまま待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題1 特別支援学校（聴覚障害）の幼稚部・小学部の自立活動の指導において、実施されることの多い基本的な指導内容を具体的に述べなさい。

問題2 近年、特別支援学校（聴覚障害）高等部には、聴覚活用の程度やコミュニケーション手段において様々な実態の生徒が在籍するようになった。例えば、聴覚をよく活用している生徒、手話と口話を併用する生徒、手話中心のコミュニケーションをする生徒、手話や指文字が不得手な生徒、読話が得意又は苦手な生徒などである。

このような実態の生徒に授業場面でグループで話し合う活動を行わせたい。この活動がスムーズで有意義なものになるために、教員はどのような指導や配慮（支援）をするべきか述べなさい。

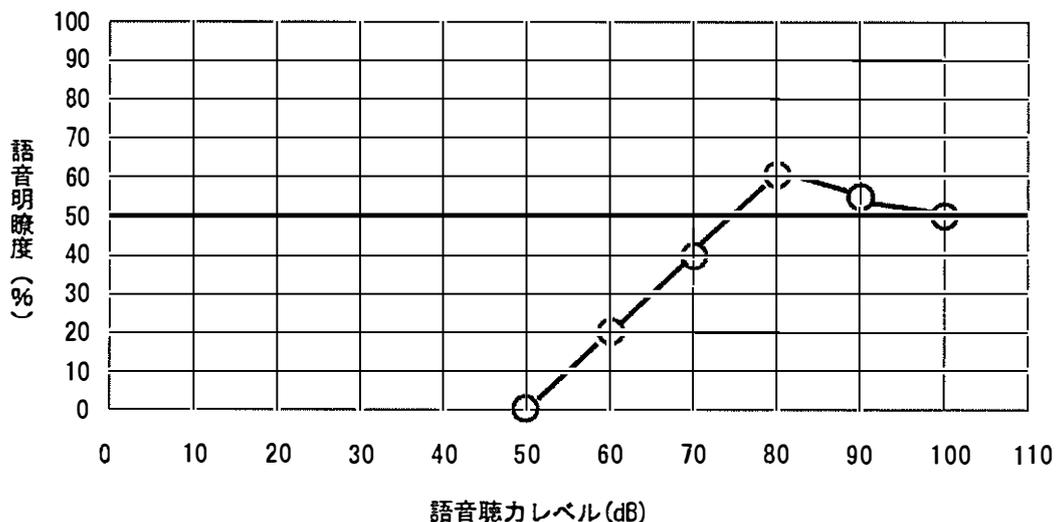
問題3 通常学級における軽度・中等度難聴児童生徒に見られる「コミュニケーションの問題」及び「行動・心理面の問題」について述べ、指導上の配慮事項について述べなさい。

問題4 聴覚障害の早期発見と早期介入の重要性について、子供の発達の側面から述べるとともに、早期介入における望ましい支援について述べなさい。

問題5 図は、A児の右耳（良聴耳）の補聴器非装用条件（裸耳）での語音聴力検査（単音節）の結果である。図の縦軸は語音明瞭度（%）、横軸は語音聴力レベル（dB）を示している。

(1) A児の右耳の最高明瞭度（%）を述べ、裸耳の会話の聞き取りの状況について説明しなさい。

(2) 補聴器装用によって聴力閾値が30dB改善した時の、日常会話音声（語音聴力レベル50dB相当）の聞き取りの改善について説明しなさい。



問題6 次の語句又は事項のうちから、三つを選んで説明しなさい。

解答のはじめに、選択した語句又は事項と、その番号を書きなさい。

- (1) 山尾脩三
- (2) わたりの指導（幼稚部から小学部）
- (3) 特別支援学校（聴覚障害）の対象者の障害の程度
- (4) 聴覚学習
- (5) 韻律
- (6) リクルートメント現象（補充現象）